

てん一新聞

06-10-Noll4
行任 市岡 日紙
第411号

蕎麦の白一色

花

九月の祖谷の畑では、蕎麦の花の白で一面おおいれます。薄密香のほろりとまいた種も、少し遅れたけど見事な白一色とまりました。早い所では十月上旬で刈りとりもはじまりました。とうとう、新そばが食べられそうです。その蕎麦の花を畑裏にとろうと、草刈りの産休み、レリーズを向けこりて不思議なことに耳に行きました。



蕎麦の花といえは、ミツバチがいついかに蜜を求めて騒びかっこのいぼおひのに、一匹と見かけません。蝶やハナアブのような昆虫は逃げかたっているのに不思議、変化を考えると、おおいあたることとがあります。この地区は、電磁波農産物の身体に異変を生じている人かいるとかミツバチが全部死んでしまった等、聞いたことがありました。やういりそうひのかと、なると恐らくはりました。



あじさい紅葉

そんな祖谷の風景も、十月の暮れとともに十度以下の温度も朝は記録されるようになってきた。紅葉は、ほんの少しだけ色づきはじめて、ドウクンツツやヌンテ、ツリバナなどは、赤ん染まりはじめているが、いつより遅い紅葉の進み具合です。その中でも、ちよと風が吹けば、木葉がまわ。吹きだまりには葉葉がたまっている。空気が澄んで、空の色がめだつてくる。夕焼けが美しい。それに、夜ともなれば満天の星、キラキラ輝く星は、夏か夜のそらとは違っているように。少し寒いかな、ひにか寝しい。長く見るとは、忍耐力がいりそう。



合併の花

「合併しなければ村の財政が破綻」というたに、一点で合併し、三好市、東祖谷となつて六月が過ぎました。今や、あつち、つらに公共施設の空家、空家、どうするんだらう。そこで、次々と合併の音が聞こえくる。社会福祉協議会も、西祖谷へ主流をもち、いこうと、今日は農協東祖谷支所も、山城町の者へ移つてしまつて、高工合も、山城に中心を移るらしい。これでは、ちよと数年もすれば、東祖谷は、どうなるか、まうのほう。仕事の中心が他に移るといふ事は、それに、伴う人も、換うて行く。これが合併効果の最大たるもの。何も出来なかった付けが、来ている。ますます、祖谷村の真価が問われる。いともさう、ますますよ。